

## 昔のひとのくらしのあとをさぐる (校区の主な遺跡)

### ■杉沢遺跡 (縄文時代／杉澤)

昭和13年の発掘調査で、2組の縄文時代晩期後半の合口甕棺が見つかり、多くの研究誌に紹介されました。以後、これまでに12基の合口甕棺が出土しています。石鏃や石皿などの一般的な石器のほかに、多頭石斧や大小の石棒、石剣、玉、御物石器などのまつりの道具が多数採集されています。



杉沢遺跡合口甕棺

### ■井の田遺跡 (縄文時代／大清水)

縄文時代中頃(約4,000年前)の土器や、古墳時代前期の土器が出土しています。いずれも東海地方のものが中心で、この地が昔から東日本からの文化の玄関口であったことがわかりました。



井の田遺跡土器 高番遺跡まが玉

### ■高番遺跡 (縄文～平安／高番)

縄文時代の珍しいヒスイ製のまが玉が見つっています。また、伊吹山麓では唯一、弥生時代から平安時代の土器群が出土しました。

### ■寺林遺跡 (奈良～平安時代／寺林)

集落の南に広がる水田で、奈良時代後半から平安時代前半にかけての地面を掘りくぼめて直接屋根をふいた竪穴住居3軒と、地面に穴を掘って柱を立てた掘立柱建物の12軒が見つかりました。のちに北国脇往還が通る交通の要地で、古代にも東国から北陸へ向かう重要なルート上にあったことがわかりました。



寺林遺跡での発掘体験

### ■京極氏館跡 (戦国時代／上平寺／国史跡)

15世紀末頃に、京極高きが北近江での政治の拠点としたのが京極氏館です。同時に、山の上の上平寺城、台地上の家臣屋敷や城下町を整備しました。伊吹神社境内の館跡には、庭園跡や一族の墓地などがあり、発掘調査では、儀式で使われた素焼きの皿や中国や朝鮮製の青磁や白磁など当時高価な品も出土しています。

### ■上平寺城跡 (戦国時代／上平寺・藤川・弥高／国史跡)

伊吹山頂から南側に伸びる尾根上(標高669m)にあります。戦いの時の山城として京極高きが築き、その後、浅井氏によって美濃との国境を守る城として利用され、織田信長が攻めてきたときには、浅井方の堀秀村が寝返って開城しました。要所を堀や土塁で防御する構造は、典型的な山城の姿を見ることができます。



上平寺城絵図

### ■春照に鉄道の駅があった！ 明治16年鉄道開通

春照には、明治16年(1883)から明治22年(1889)まで、鉄道の駅がありました。当時、敦賀と長浜、大津と神戸は琵琶湖の汽船を通じて開通しており、日本海側と太平洋側が結ばれていました。さらに、東京(新橋)と結ぶために、長浜・関ヶ原間の鉄道が、日本で5番目に早く着工され、ちょうど中間の大きな町だった春照に駅が置かれたのです。



**【資料館を利用しよう!】**  
**伊吹山文化資料館**  
 (米原市春照77)  
 開館時間: 9:00~17:00  
 休館日: 毎週月曜日、祝日の翌日、年末年始  
 入場料: 一般 200円、市内小中学生は無料



1 霊峰伊吹 背にそびえ  
 姉の流れは 永久に澄む  
 恵みの生氣 みなぎりて  
 高き理想を 打ちたてん  
 われら春照小学校

2 天与の資源 限りなく  
 歴史は遠き 藤古川  
 名におう由緒 たずねつつ  
 広き文化に さきがけん  
 われら 春照小学校

学校のまわりの宝物④

# 春照小学校区

親子探訪ノススメ

【校区】  
 藤川、上平寺、寺林、大清水、村木  
 杉澤、高番、春照、伊吹ヶ丘、南川

平成28年度埋蔵文化財公開活用事業

# 校区のようす

※校区：昭和30年代の1〜3つの旧村を範囲とし、地域性や歴史をもっともコンパクトにあらわします。

春照小学校区は、伊吹山麓の東西7キロにおよぶ細長い地域で、西部・中部は、弥高川の扇状地で田畑が広がっていますが、東部は山林が大半を占め、藤古川にそって3つの集落があります。自然環境に恵まれたのどかな地域ですが、江戸時代には街道(北国脇往還)が通り、藤川と春照に宿場町がひらかれました。明治16年には、日本で5番目に鉄道(現在の国道365号)が敷かれるなど、北陸と東海を結ぶたいせつな地域です。学校は杉澤にあり、学校名は昭和31年の三村合併(坂田郡伊吹村・東浅井郡東草野村と合併して新伊吹村となる)まであった坂田郡春照村の名前によります。校歌の「天との資源」は、石灰岩をはじめとする伊吹山の恵みをさします。また、藤古川は、滋賀県内のほとんどの川が琵琶湖にそそぐなかで、伊勢湾に流れる唯一の川として知られています。

# 校区のあゆみ

弥高川や政所川・藤古川が作った扇状地上にある各集落では、伊吹山から湧きだした水をよほどころにして、縄文時代から集落が営まれました。大清水の井の田遺跡では縄文時代中頃(約4,000年前)の土器や石器がみつっています。杉沢遺跡は縄文時代終り頃(約2,500年前)の遺跡で、昭和13年に湖北で初めて発掘調査がおこなわれました。これまでに、合口甕棺という土器を使ったお墓や、木の実を保存した穴などが出土しています。寺林では、奈良時代から平安時代の大きな集落がみつかり、古くから北陸や東海へ向かう道があったことがわかりました。戦国時代、上平寺には北近江の戦国大名・京極高景が築いたお城跡がありました。全国的に数少ない当時の庭園がのこっています。



## 春照小学校区アラカルト

### 【自然】泉神社湧水(大清水/名水百選)

伊吹山麓に源を発し、石灰岩の岩間をぬって神社境内に湧き出したもので、ミネラルをふくんだ、清く、年中水温11度の冷水です。1日の湧出量が4,500トンもある豊かな水です。昭和60年に環境庁から「日本名水百選」に選ばれました。白鳳2年(673)、大清水野が開墾されたときに泉が湧き出し、氏神をまつたことがはじまりと伝えられます。大清水の名もこの湧水にちなみます。

### 【まつり】八幡神社太鼓踊附奴振り(春照/県選択文化財)

八幡神社で、5年に1度、9月23日に踊られます。太鼓踊りは、江戸時代の雨乞いが起源で、寛文11年(1671)にはじまったとされます。いまは着飾って伊吹山の水神へのお礼の踊りとして盛大にとりおこなわれます。道行では、奴振りを先頭に旧北国脇往還の宿場町を練ります。雨を祈った山伏や法印、寺社奉行、風を起して雨をよぶ大団扇が参加します。

### 【街道】北国脇往還と宿場町(藤川・春照)

北国脇往還は、中山道関ヶ原宿と北国街道木之本宿を結ぶ古くからの道で、関ヶ原・姉川・賤ヶ岳の古戦場や、上平寺城・小谷城などの史跡があり、江戸時代には、北陸や湖西の大名が参勤交代に利用するなど、重要な道でした。藤川と春照に宿場が置かれ、藤川には、本陣を勤めた林家がのこっています。

### 【仏像】円空作十一面観音立像(春照/市文化財)

江戸時代前期の僧円空が彫った180.5cmの大作で、表情は柔和で優しく、刻線は強く、全国に五千体以上ある円空仏の代表作ともいわれます。背面一杯に墨書があり、堅い桜の木像を、たった1日で彫り上げていたことがわかります。この像は、昭和38年まで伊吹山西側山腹にあった太平寺集落の観音堂にまつられていましたが、現在地に集団移住され、大平観音堂にまつられています。



泉神社湧水



太鼓踊附奴振り



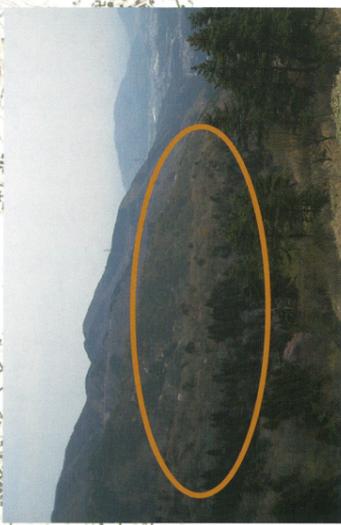
十一面観音立像



藤川宿本陣



春照宿本陣跡



上平寺城跡



京極氏館跡発掘状況

☆遺跡名のあとの(番号)は、米原市遺跡リーフレットに対応しています。  
★遺跡リーフレットは、伊吹山文化資料館にあります。